

両英雄りょうえいゆう  
(徳富蘇峰とくとみそほう)

堂堂錦旆壓關東 百萬死生談笑中  
群小不知天下計 千秋相對兩英雄

堂々たるどうどう 錦旆きんぱい 関東をかんとう 圧すあつ

解説 西郷隆盛と勝海舟との偉大な人柄と力量とを讃えた詩。

百萬のひゃくまん 死生しせい 談笑のだんしょう 中うち

語釈 ※錦旆Ⅱ錦の御旗。※庄関東Ⅱ薩長主体の討幕の軍勢が西から上つて来て関東を威圧すること。※百万死生Ⅱ江戸の市内が戦火にまき込まれると、百万の江戸庶民の生死は計り知れない。※談笑Ⅱ西郷と勝との会談。

群小はぐんしょう 知らずしらず 天下のてんか 計はかりごと

「笑」の字を用いたのは、二人の大人物であることを示している。※群小Ⅱ物事を見きわめることのできない多くの小者。※天下計Ⅱ国土統治の策。※千秋Ⅱ千年、永い年月。※相對Ⅱ向かい合っている。※両英雄Ⅱ西郷隆盛と勝海舟との兩名。

千秋せんしゅう 相あい 対すたい 両りょう 英雄えいゆう

通釈 錦の御旗を先頭に、討幕の官軍が堂々進軍して関東を威圧している。この危機にあつて、江戸百万の庶民の生死は西郷、勝の談笑の中にかかっている。物事を見きわめることのない群小どもには、二人が画くえが天下の大計など知るはずもないが、両者相對する姿は、永遠に伝えられるであろう。